

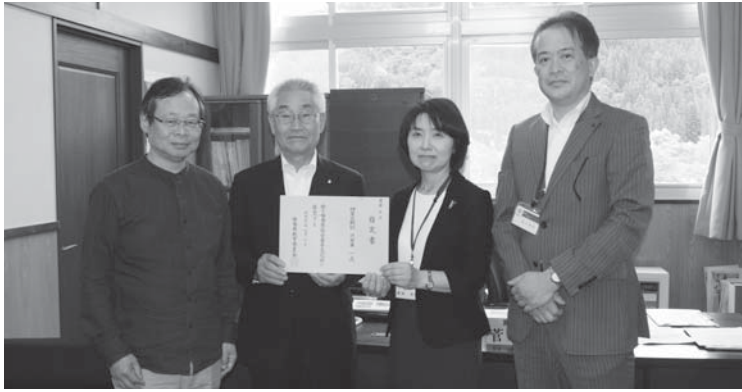
黒谷の民家から発見された第一級資料

「神皇正統記只見本」が県重要文化財に指定

じんのうしゅうとつき

黒谷の民家で発見された南北朝時代の歴史書「神皇正統記只見本」が4月3日に福島県重要文化財に指定され、6月11日に役場で指定書の伝達式が行われました。

この神皇正統記只見本は、1587年(天正15年)に玄純房祐俊が書き写した写本で、多くの漢字に振り仮名が付けられており、当時の読み方が分かる日本の文化史上でも貴重な



▲指定書を手にする町長(中左)と渡部教育長(中右)、指定書を手渡した県教育庁の鈴木課長(右)、同席した東洋大学の久野講師(左)



▲県重要文化財に指定された「神皇正統記只見本」



古典籍となつています。また、冊子のとし方も「綴葉装」という手法が用いられ他の写本にはない特徴があります。伝達式では、福島県教育庁文化財課の鈴木俊明課長から菅家町長へ指定書が手渡されました。神皇正統記只見本は、中世の只見の文化を知る貴重な資料として活用されていきます。

内堀福島県知事が只見町に来町

町関係者との意見交換と町内施設を視察

6月27日、内堀雅雄福島県知事が只見町に来町され、町関係者との意見交換、合同会社ねっかと河井継之助記念館の視察を行いました。

ただみブナと川のミュージアムで行われた内堀知事との意見交換会では菅家町長、橋本副町長、渡部教育長、齋藤議長が出席し、復旧工事が始まったJR只見線や町の事業であるブナ林フォーラム、只見町プロジェクト、ESD教育など9項目について意見交換されました。只見線について、菅家町長は「復旧が決まりこれからが正念場」と述べ、内堀知事は「只見線には可能性があ



▲合同会社ねっかのテイスティングルームでねっかの皆さんと語る内堀知事(右)

る」とし、ローカル線で人気の高い秋田県の五能線を見本に、「海の五能線・山の只見線」を目指したいと述べられました。

視察で訪れた合同会社ねっかでは脇坂齊弘代表社員の案内で蒸留所とテイスティングルームを見学し、米焼酎ねっかを試飲しました。内堀知事は「香りが高くやわらかい味わい」と話されました。また、河井継之助記念館では、終焉(しゅうえん)の間やガトリング砲などの説明を受け、戊辰150周年における只見町の歴史に触られました。



▲河井継之助記念館を視察した内堀知事と町関係者の皆さん

旬の味を堪能

第22回山の幸山菜まつり開催

6月3日、塩沢区・十島区山菜まつり実行委員会が主催する「山の幸山菜まつり」が塩沢農村公園で開かれ、町内外から約100名が来場しました。

開会式では矢沢友二塩沢区長が「今年の山菜は天候不順の影響が心配されたが無事今日を迎えることができた」とあいさつし、菅家町長が「その年々の山菜の味を堪能してほしい」と祝辞を述べ、酒井右二副議長の発声で乾杯しました。会場では、わらびやうどなどが入った山菜汁が振る舞われ、山菜の天ぷらやハヤの唐揚げなどが販売されました。来場者は、旬の味を堪能していました。



▲多くの来場者で賑わった山菜まつり

気象業務の発展に寄与

只見町が気象庁から感謝状

6月11日、気象庁から町が委託を受けている気象観測業務に対する感謝状伝達式が役場で行われました。これは、長年にわたり只見地域気象観測所の委託観測業務に献身的に協力し、気象業務の発展に寄与した功績が認められたもので、南会津郡内では館岩・檜枝岐地域気象観測所とともに選ばれました。只見町の観測所は只見字原地内にあり、気象観測機器などが設置されています。

伝達式では、福島地方気象台の中村雅基台長が菅家町長に「気象業務の発展にご協力いただき感謝いたします」と感謝状を手渡しました。



▲感謝状を手渡した中村台長(右)と受け取った菅家町長(左)

スキー協会での栄誉称える

鈴木章二さんに功労者賞

6月19日、只見町体育協会が主催する「加盟団体表彰」において、只見町スキー協会の鈴木章二さん(沖)が加盟団体功労者賞を受賞しました。これは、体協会員として生涯スポーツなどの振興に大きく貢献された方を表彰するもので、3年前から始まりました。鈴木さんはスキー協会やスキースポーツ少年団の発足などに大きく寄与され、選手の育成や只見スキー場の運営などに尽力し、スキー協会長も歴任されました。自宅で行われた表彰式では、鈴木好行体育協会長から鈴木さんに表彰状が手渡され、その栄誉が称えられました。



▲表彰状を手にする鈴木さん(中右)と妻のサナエさん、鈴木会長(右)、渡部教育長(左)

モニタリングポスト撤去に意見

只見町で県内初の住民説明会

6月25日、県内の放射線量測定装置(モニタリングポスト)を一部撤去する方針を示している原子力規制委員会の説明会が只見振興センターで開かれ、町内外から22名の方が出席しました。

方針決定後初めての住民説明会となった只見町では、町内に設置する9台のうち7台が撤去対象であることなどが説明され、町民や学校関係者などから「原発問題が収束していないのに撤去はありえない」「事故を風化させないための教材になっている」などの意見がだされました。

規制委は今後、県内18市町村において説明会を開く予定です。



▲原子力規制委員会の武山松次監視情報課長の説明を受ける参加者の方々